

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 すがお 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

教科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。領域で見ると、「読むこと」「書くこと」は、全国平均・県平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」については、全国平均を上回っているが、県の平均は下回っており、この領域に課題がある。
国語	よくできた問題	「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」「文の中における主語と述語との関係を捉えること」については、平均正答率が全国平均を上回っていた。
	努力が必要な問題	「登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える」については、平均正答率が全国平均を下回っていた。
	算数	平均正答率は、全国平均を上回っている。「数と計算」「図形」は、全国平均を大きく上回っている。「変化と関係」「データの活用」は全国平均を下回っており、特に「変化と関係」に課題が見られる。
算数	よくできた問題	「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している」については、平均正答率が全国平均を上回っていた。
	努力が必要な問題	「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」については、平均正答率が全国平均を下回っていた。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析	
・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について肯定的な回答が100%であった。全学年で、主体的に学習に取り組む子どもの育成のために、家庭学習に自主学習を取り入れ、学習を習慣化しようとして取り組んできた成果であると考えられる。	
・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」について肯定的な回答が100%であった。主題研究を通じた授業改善により、自分の考えを深めたり、広げたりする力の育成に継続して取り組んできた成果であると考えられる。	
・「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や希望を持っている」について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。今後も、児童の自己肯定感を高め、それぞれの夢を実現させるために、具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要であると考えられる。	
・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。地域に対する関心の高さとともに、郷土愛する心が形成されていることが分かる。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・学習の基礎づくりを徹底し、「『わかる授業』づくり5つのポイント」を確実にとおさえた授業を繰り返し実践する。

・授業中、学習のまとめを自分の言葉で短く書くなど、自分の考えや振り返りを短い文で書く習慣化を図る。

・朝の学習として、国語タイム、算数タイム、読書タイムを全校一斉に実施して、基礎的・基本的な学習の定着を図る。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・「10分×学年+10分」を家庭学習の時間の目安とした自主学習の取組を継続する。また、学年に応じて「自主学習ノート」を活用して、予習や復習ができるように引き続き指導する。さらに、学校行事や、学習・生活の様子等を、学校だより・学級だよりで伝えていくことで、家庭と学校、地域が協働して児童の育ちを見守る。